

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
YIC京都ビューティ専門学校	平成21年12月2日	杉山 征人	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4100																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	ブライダル科	平成28年文部科学省 告示第18号	-																						
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。</p> <p>具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教養育てることを目的とする。</p> <p>真のビューティフルライフは、単なる外見の美しさだけではなく、知性・感性・人間性・誠実さ・自信など肉体・精神が健康であることから成り立つものと考え。本校が目指す美容分野のスペシャリストは美容師であることをベースにヘア・メイキスト、スタイリスト、メイキスト、ネイリストといった髪・顔・装いのそれぞれの分野を深く極めたスペシャリストであるとともに、一人の人間をトータルにとらえ、総合的な美を演出できることを目指す。将来は、美容業界の指導的立場やリーダーとなることを期待している。</p>																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験 実技																				
2年	昼間	1,920時間	600時間	1,320時間	単位時間																					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人	22人	1人	3人	15人	18人																					
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績:優(100-90) 良(89-70) 可(69-60) 不可(59-0)																						
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率: 80%以上 成績: 60点以上(100点満点) 学費の完納																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等) ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) ウエディングサロン、ホテル、美容室等 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数: 10人 ■就職希望者数: 10人 ■就職者数: 10人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルプランナー検定1級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>ドレススタイリスト検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルフラワーコーディネーター検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>JMA3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルプランナー検定1級	③	11人	6人	ドレススタイリスト検定	③	12人	11人	ブライダルフラワーコーディネーター検定	③	12人	12人	JMA3級	③	12人	12人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ブライダルプランナー検定1級	③	11人	6人																							
ドレススタイリスト検定	③	12人	11人																							
ブライダルフラワーコーディネーター検定	③	12人	12人																							
JMA3級	③	12人	12人																							
中途退学の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 14.3% 平成28年4月1日時点において、在学者28名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者24名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業についていけない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個人々々への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・経済的支援制度(専願出願者で経済的事由(生活保護受給世帯等)により学費減免を希望する者。最大10名 初年度学費より20万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業・見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ・特別就学支援(本校に入学する全ての者に対し、初年度学費を20万円免除) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科のホームページURL	URL: http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
 ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す 学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。

必修科目	専門科目	・卒業生が必ず修得していなければならない科目 ・基本共通科目	座学・実技
	人間力		キャリア科目
選択必修科目		卒業生が修得していなければならない科目 専攻によりより深く学ぶことができる	学生自身が 自分の将来に 向けて選択
選択必修科目		卒業生が修得することが望ましい科目	

・教育課程科目は、毎年度毎に見直し、新設、廃止、改訂、改正を行う。これらの結果は、教育課程編成委員会における企業側の科目の指導・助言に基づき必要に応じて内容の修正、変更・追加を行う。
 ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
 ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、キャリア科目だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
 ・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
 ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
 ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 元子	日本マナーマイスター学会 理事 (株式会社京織 代表取締役社長)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	②
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
藤本 豊士	レーコ美容室株式会社 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
松下 哲也	資生堂プロフェッショナルカビ株式会社 営業部 広域統括部 6グループ 部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
越前 多恵子	ワタベウエディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
杉山 征人	YIC京都ビューティ専門学校 校長		
細田 元一	YIC京都ビューティ専門学校 副校長		
田澤 初美	YIC京都ビューティ専門学校 教務課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数 2回

(開催日時)

第1回 平成29年5月19日 15:30～17:00

第2回 平成29年11月6日 13:30～15:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・授業の中に学生が本当にやりたい事を反映させてはどうか。
30年度からBIA検定の導入を検討
- ・学生が運営企画、アテンド、広報、報告まで実施するイベントを企画してはどうか。
今年度の9月、12月に学生にショーを実施予定。学生のみでのイベント開催を目指したいが、今年度は教員が誘導として参加する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国家資格である美容師資格習得に必要な教育科目は美容師養成施設指定規則で定められており、資格取得のために全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、美容分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。

後者の科目については、地域社会で美容業界を主導する20社以上のサロンをネットワークサロンとして組織し、連携することにより、美容業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。ネットワークサロン以外の美容業界のみならず、ビューティ分野の企業、理美容組合、メイク、ネイル、ブライダル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携する。

連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・企業等と協定書を締結し、連携授業としてカットⅡやカラー特論の授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。

・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント⇒評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実務研修	基本的な案内の方法や正しい敬語、ビジネスの場に求められる立ち振舞いを身につける。ブライダル科で学ぶ集大成として模擬挙式・披露宴を実施。	株式会社 ナノ
マナープロトコール	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。	キャリアアップラボ株式会社
インターンシップⅠ	ブライダル業界研究で学んでいることを参考にしインターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提として、インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。交通費等の費用は原則自己負担である。	新・都ホテル、(株)エッチ・エヌ・オー(ホテルニューオウミ)、(株)クレジエンドプロデュース(びわこ大津館)、アイネスヴィラノツェ宝ヶ池、(株)アニバーサリークラブ日本私学振興・共済事業団(京都ガーデンパレス)、(株)プリンスホテル(びわこ大津プリンスホテル)、オリエ
ブライダルコスチューム	ウエディングに関する男性・女性のドレスコードを把握する。洋装・和装の幅広い知識の習得に努める座学。暗記も多くあるが対策を実施しシーンやお客様にふさわしい提案ができるようになる。	株式会社 プーブワフレ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教えるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ABC協会講師資格取得セミナー ブライダル総研グッドウェディングアワード
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 京都府教育相談研修会、YICグループ新任教員研修、京都府専修学校各種学校協会主催「新任教員研修」受講、同
 人権教育研修会受講、接遇&マナー研修会

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ABC協会講師資格取得セミナー ブライダル総研グッドウェディングアワード
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 インストラクションデザイン研修、アドラー心理学の活用による退学者防止学級経営術、アクティブラーニング型授業研
 修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 ・非常勤講師はどの程度授業態度に対して指導しているのか、また指導基準が存在するのかどうか。
 授業評価でのフィードバックシステムは存在するが、PDCAを確実に回すことが29年度の課題である。
 ・卒業への支援がどの程度機能しているのか。OB、OGとの繋がりをしっかりとした方が良いのではないか。
 同窓会は存在するが十分に機能はしていない。現状では卒業生の動向調査にとどまっている。今後は企業と連携した卒業後の研修も踏まえて検討する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿 平成29年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 元子	日本マナーマイスター学会 理事 (株式会社京織 代表取締役社長)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	学会
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
藤本 豊士	レーコ美容室株式会社 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
助川 春彦	資生堂プロフェッショナル株式会社 広域統括部 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
越前 多恵子	ワタベウエディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
福山 正樹	レーコ美容室株式会社	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 URL: <http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ブライダル科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
			ブライダルコスチューム	ウエディングに関する男性・女性のドレスコードを把握しする。洋装・和装の幅広い知識の習得に努める座学。暗記も多くあるが対策を実施しシーンやお客様にふさわしい提案ができるようになる。	1	60	2	○			○			○	○	
			ブライダル概論	人はなぜ結婚するのか？歴史や現代の結婚の形態や流れを数値的に学ぶ。さらには現在のブライダルセレモニーの様子をビデオ等も通じて興味を深めていく。ブライダル業界におけるビューティ関連の役割・重要性を知ることによって今後の職業観の成長を促す。プランニング・ドレス・料理・花・進行等のそれぞれの基本的なことをグループワーク等も交えて学習する。	1前	30	1	○			○					
			フードコーディネーター概論	フードコーディネーター教本をもとに料理サービスの基本を学習する。食の文化や科学・衛生及びテーブルコーディネイトやマナー・サービスの方法へと学習内容を広げていく。更に販売促進に一環として経営やメニュープランニングについても考査していく。	2前	30	1	○			○				○	○
			ブライダル企業研究	婚礼会場はどの様なところがあるのか。そこではどのような仕事があるのか。関連業種は？などについて調べる。9月のインターシップリテラシーも取り組んでいる。ブライダル業界をブレ・当日・新生活部分に分けてさまざまな角度から検討を深める。	1前	30	1	○						○		
			ホスピタリティマインドコミュニケーション	おもてなしの心や人にやさしい気持ちってどんなものだろう・・・思いに寄り添って聞く・聴くという傾聴の方法や自分の思いを伝える方法を穏やかな気持ちになって学習していくことによって人として成長していく。理論的に学びエクソサイズやグループワークを通して相手の思いや自分の気持ちに気付き人として成長していく。レポート化することによって可視化していき深く見つめる機会を持つ。	2後	30	1	○			○					
			ABC検定Ⅰ	ABCブライダルプランナーテキストを使用しブライダル業界の基本的な仕事に必要な知識の習得。日本および海外のブライダルの基礎を網羅した学習内容。日本においては関連業種、海外においては宗教観の違いなども含め知識を深める。	1後	30	1	○			○					
			ABC検定Ⅱ	1年時に学習したABCブライダルプランナーテキストを使用しブライダル業界の実務部分を学習する。実際の業務に求められる能力を高めアシスタントブライダルプランナーの資格を得る。また12～15回には実務実践として、各自がプランニングシートを作成しエレガント又はキュートのテーマでチャペルを演出する。15回には完成披露を行う。	2前	30	1	○			○				○	

			ブライダルサービスⅠ	一部ブライダル業界で現在活躍中の方を講師に迎え講話を受ける。また、ブライダル施設などの見学実習も行い、段階を踏んで興味を喚起し業務を行うための実践的な内容へと進んでいく。またブライダル業界に求められる資質の確立、資格取得に向けた対策なども含まれる。今後様々なプランニングを実施する基礎的なイメージを高められる授業である。	1前	60	2					○	○					○	○	
			ブライダルサービスⅡ	ブライダル施設などの見学実習などで学習したことを踏んで興味を喚起し業務を行うための実践的な内容へと進んでいく。またブライダル業界に求められる資質の確立。今後様々なプランニングを実施する基礎的なイメージを高められる授業である。	2後	30	1					○	○							
			セレモニープロデュースⅠ	ブライダル業界にとって大きなうえいとを占めるチャペル挙式の内容をしっかりと理解し、計画実行する。5月00時にチャペル挙式実施。また、後期は人前式にも取り組む。グループワークにて実施。2月末頃に外部お客様を招いて披露できるレベルになる。	1前	60	2						○	○					○	○
			セレモニープロデュースⅡ	晩秋にゴスペルの練習発表のパーティを実施。また最終的には前期に引き続いて後期では外部の列席者を迎え、学生がプランニングし実行するセレモニーに向けて準備を進めていく。	1後	60	2						○	○					○	○
			レストランサービス	ビジネスや日常生活におけるしきたりやマナーについて、その必要性、基本を学び、視覚教材(ビデオ、DVD、TV等)を利用し、それらのマナーが実際にどのように生かされているかを知り、シミュレーションや実務作業を通して単なる知識ではなく応用展開が可能な能力をつけられるように授業を進める。 ホテル様にご協力を頂き実習を行う。一般のお客様へのサービスも実施する実践的な授業。また最終回にはランチサービスを実行する。	2前	30	1						○	○						
			フラワーコーディネート	多様化するニーズ。結婚式や披露宴をカラーやフラワーなどをコーディネートするセンスが問われます。演習に欠かせないフラワーアレンジメントの基本の実践と最新のテクニックを学びシーンに花のセレクトや個性の表現を磨きます。ほぼ毎回実習を行うため、各自和ばさみ・ハンドタオル・持ち帰り用袋など持参の事。	1前	30	1						○							○
			演出クリエイティブ	様々なシチュエーションでのスタッフの役割を理解し、挙式セレモニーやウエディングパーティの演出効果として大きなウエイトを占める音楽や照明について学ぶ。イベントプロデューサーと連動し演者・音響・照明(スポット)の3つができるようになる。授業としての発表を夏休み中に行うが、今後も様々なイベントに参加していくベースである。歌・音響・照明の各講師がプロのテクニックを教える。	1前	30	1						○	○					○	
			インターンシップⅠ	ブライダル業界研究で学んでいることを参考にしインターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提として、インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。交通費等の費用は原則自己負担である。	1前	60	2						○		○					○

			インターンシップⅡ	ブライダル業界研究で学んでいることを参考にしインターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提として、インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。交通費等の費用は原則自己負担である。	1後	60	2			○	○				○	
			ビジネススキルアップⅠ	マナーは形式を学ぶことではなく、「思いやり」の気持を表現する方法論のひとつです。その本質を理解した上で、よりよい表現方法を実践を通して学び、大人の女性としての基盤を作ります。	1前	30	1	○			○					○
			ビジネススキルアップⅡ	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事はどのような内容かといったことを中心に、速やかに適応するための基礎的な知識やスキルを学ぶ。	2前	30	1	○			○					○
			グループディスカッション	現在社会的問題になっていることや、これから日常生活において遭遇するであろう各問題に関して様々な角度から考査していき意見を交わす。担当教員が提示する時事的問題・世界各国との関わりかをもたらず日本の問題などにも見聞をく深めていく。	2前	30	1			○	○					
			サービス接	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける	1	30	1	○			○					○
			プレゼンテーション	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。	1後	30	1	○			○					○
			マナープロトコール	国際的な基本マナーであるプロトコールなど、マナーに関する知識の幅を広げる。また、国際化社会においても普遍的に要求される、論理的に表現する力を養成する。各回演習を行う。	2後	30	1	○			○					○
			ビューティコーディネイト	トータルビューティを学ぶ上幅広く活躍するために美容サロンにおける基礎知識を学習する。公式テキストにのっとって進める。2章の一部・3章については美容専門部分であるため美容科の教員によって指導を行う。検定が6月であるため春休みから実施する。	2前	30	1	○			○					○
			基本IT技術Ⅰ	企業においてパソコンでの事務処理は必須である。授業内ではワードにてチラシ(案内)が作成できる。2年で習うコンピュータ映像の授業にスムーズに入ってブライダル業界でのセンスある映像加工ができるように学習する。	1前	30	1	△			○					○
			基本IT技術Ⅱ	企業においてパソコンでの事務処理は必須である。授業内ではエクセルを使用しての基本的な実務書類(顧客データ管理、表作成、請求書作成)が作成できる。	1後	30	1	△			○					○
			トータルビューティ基礎学Ⅰ	ブライダルにおける美容の基礎知識を身につける	1後	30	1	○			○					○
			トータルビューティ基礎学Ⅱ	ブライダルにおける美容の基礎知識を身につけ、実際の現場で対応できるような知識を身につける	2前	30	1	○			○					○

		色 彩 学	色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすりのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。	1 後	30	1	○			○								
		ブ ラ イ ズ メイ ク ヘ ア	即戦力として活用できる着付とブライタル業界実務	2 後	60	2			○	○								○
		着 付 け ・ 作 法	浴衣の着付けから始め留袖の着付けで練習をしていく。帯結び(お太鼓・飾り結び)が数種できるように実践的な授業。和装の名称を覚える	1 後	60	2			○	○								○
		メイ ク ア ッ プ 基 礎	<座学>皮膚科学、顔の成り立ち～顔分析、ゴールデンプロポーションについて、色彩学、道具の名称～使いこなしなど <実技>クレンジング～ベースメイク作成、ポイントメイクの楽しさを知る	1 前	60	2			○	○								
		ネ イ ル 基 礎	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート検定3級対策	2 後	90	3			○	○								○
		ヘ ア ア レ ン ジ I	ウィッグ使用の実技中心となる。	1 前	30	1			○	○								○
		ビ ジ ネ ス 文 章 力	ブライダル業界では特に文字を書く機会が多くあり、誤字脱字は信用をなくす。毎回課題のペン習字の提出を行い読みやすい字を書けることを定着させる。また論述文や読書により感情移入表現が豊かにできるような座学。休み期間には練習問題集への取り組みもある。	1 前	30	1	○			○								○
		ビ ジ ネ ス 数 学	日常生活に関する題材を取り上げ、確かな読解力・適切な翻訳の仕方、正確な遂行力を養い論理的思考の面白さ、痛快さを実感する。	2 後	30	1	○			○								○
		ビ ジ ネ ス 英 語	ブライダルシーンを想定し、初対面の挨拶から会場案内・道案内などができる会話能力をつける実践的な授業。2人チームやグループとなり英語でのコミュニケーションが高められるよう趣味や文化などの紹介なども盛り込んでいる。また担当教員が準備するフラッシュカードやビデオなどの映像を見ながらの視覚的授業もありビジネス英語への興味喚起をうながす内容である。 1回のレッスンで1つのテーマに絞り、豊富な発話量・口頭練習で達成感と共に定着を図ります。 2回目のレッスンからは前回の復習としての単語小テストを実施します。	2 後	30	1	○			○								
		時 事 社 会	社会の中で生きる一員として社会通念を身につけ現代の情勢・日本の置かれている問題・様々な問題などを知り考えられる能力が求められる。ニュース検定関連のWEBを利用し各自で学習を進めていく。新聞記事や情報(メディア)などを取り上げ、知る・考える・意見を語るなどの授業を実施する。また、記述することで自身の意見を可視化し文章力の向上にも繋げていく。	2	30	1	○			○								
		論 理 的 思 考	日常生活に関する題材を取り上げ、確かな読解力・適切な翻訳の仕方、正確な遂行力を養い論理的思考の面白さ、痛快さを実感する。	2 前	30	1	○			○								○

			サービス接遇特	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける	1	30	1	○			○									
			キャリアデザインⅡ	各自の就職活動が円滑に進むよう担当教員がアドバイスなどを適時行う。エントリーをした企業への履歴書の記入や自己アピールなど具体的に指導する。自分の目標を見失うことなく就職先企業を決めていく作業を行う。個人ワーク、グループワーク形式。小テストにて理解度確認。	2前	30	1	○			○			○						
			セールスプロモーション	ビューティコーディネーター2級テキストのサロン運営部分を中心に学習する。サロン営業のマネージメントや購買意欲を向上させる方法等についての知識をつけていく。収益率等の計算を実施。効果的なDMについて、ディスプレイについて等を幅広く知る。検定日に合わせて一部集中授業また過去問への取り組みは自学。	2	30	1	○			○									
			研究レポート	ブライダルに関する知識を深めるため自ら探求していく。課題により様々な分野の知識を得ることによって見識を広めていく。レポート化して発表する。	2	30	1	○			○									
			コンピュータ映像	披露宴やパーティにおいて映像を使った演出が多くみられニーズが高い。二人のストーリーをまとめたものや当日のセレモニーの様子を即映すエンドロールとはどのようなものか。またどの様にして制作するのか。授業では自分たちのVICでの軌跡を映像化する。	2後	30	1				○	○								
			イベントプロデュース	地域のイベントや学祭(ほりかわ祭)などの企画を行い実行に向けて様々な角度から準備を進めていく。これらの小さなイベントの参加→実行→主催へと成長を遂げていく足ががかりとして、バックヤード演習と連携したステージ発表プログラム・ほりかわ祭の企画などを行う。一部集中授業。	12前	60	2				○	○	△							
			アクティビティコミュニケーション	ブライダル業界では素早い行動が求められる。またチームワークで行動することも多くある。授業ではレクリエーションスポーツやコミュニケーションゲームを行う。ストレス解放の仕方。リフレッシュの方法を知りメンタル面の強化も図る。一部校外授業(体育館)も行い団体スポーツ会の参加もある。	2後	30	1				○			○	○					
			ヘアアレンジⅡ	ウィッグ使用の実技中心となる。	2	30	1				○	○								
			ブライズエステ	花嫁を最高に輝かせる為に今やブライダルエステをする人も多い。ドレス選びの際に肩やデコルテをマッサージするだけで瞬時に引き立つこともある。ブライダル業界人としてエステの効果の説明ができること、簡単なマッサージができることは武器になる。授業は理論と実技を並行して行う。実技はハンド・デコルテを相モデルで、フェイスはセルフで実施する。上達度を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識やテクニックを確かなものとするようにする。	1後	60	2				○	○								

		ビューティ探求	各自がテーマを決めてこれまでに学習した技術の研鑽に努めていく。初回に概要を説明するので興味を持って練習したいこと。又は就職先で求められる技術や知識を深めていく。	2後	30	1				○	○						
		アロマセラピー	授業は座学を中心とする。理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確かなものとするようにする。また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。	2前	60	2				○	○						○
		ブライダルサロン	披露宴やパーティの計画を行いチーム連携で実行していく過程を学習する。MC実習を行い基本的な進行を理解する。挙式希望のエンドユーザーがあれば希望に添えるようカウンセリングから挙行まで実施する。	2前	30	1				○	○						○
		イラスト・デッサン	鉛筆の削り方・持ち方・描き方・構図などデッサンの基本を習得し、人の顔やスタイルなどスケッチ的なスタイル画へと発展させる。イラストやデザインなど表現・提案するための基礎を学ぶ。	2後	30	1	△			○	○						○
		ブライダル演習	ブライダル関連科目を連動し出し合ったアイデアに必要なものをオリジナルで作成する。またセレモニーやパーティの実行に向けて様々な形態で演習を行い完成度をあげていく。披露宴パーティに通じるクリスマスパーティを計画実施。	1後	30	1				○	○						
		フラワーコーディネート	多様化するニーズ。結婚式や披露宴をカラーやフラワーなどをコーディネートするセンスが問われます。1年時に学習したフラワーアレンジの技術をベースにあらゆるシーンや個性に合わせ提案できる最新のテクニックを学ぶ実践的授業。ほぼ毎回実習を行うため、各自和ばさみ・ハンドタオル・持ち帰り用袋など持参の事。	2	30	1				○							○
		実務研修	基本的な案内の方法や正しい敬語、ビジネスの場に求められる立ち振舞いを身につける。ブライダル科で学ぶ集大成として模擬挙式・披露宴を実施。	2後	60	2				○						○	○
		リゾートウェディング研修	婚礼会場における現場実習。時期は9月。3～4人のグループにて3日間会場にて研修を行う。挙式会場やパーティ会場の環境整備や会場設営などを通じて幅広くブライダルについて学ぶ。事後学習では学んだことをまとめてレポートして提出する。	2	30	1				○							○
合計				60科目				2,100単位時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必須科目44単位（1,320時間）および 選択必須科目20単位（600時間）以上、計64単位（1,920時間）以上の履及び学費の完納 履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。